

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：野間 洸佑 作成日：2025年12月18日

1. 教育の責任

- ・国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護ができる看護教育の一翼を担っている。
- ・こどもの疾患のみならず、こどもとその家族がもつ多様な背景を理解し、適切な医療・看護が提供できる看護師を養成する。

2. 教育の理念

- ・学生が、こどもとその家族がもつ多様な背景を踏まえた生活を支援する方法を考えられる機会をつくる。
- ・学生の自主性を育てられるよう支援をする。
- ・学生と対等な立場でかかわることを大切にしている。

3. 教育の方法

- ・小児看護援助論Ⅰでは、講義を通して病気に罹患したこどもや慢性疾患をもちながら生活するこどもとその家族への支援について教授する。また、演習を通して、基本的な小児看護技術を教授するとともに、学生が講義と実践を結び付けられるよう支援する。
- ・小児看護援助論Ⅱでは、事例を用いた看護過程を展開することや、グループワーク・演習を行うで、様々な健康問題をもつこどもとその家族への支援を、学生がより具体的に考え、理解できるようサポートする。また、こどもの救急蘇生の講義や演習を通して、こどもの命を守る方法を学生が理解できるよう支援する。
- ・小児看護学実習では、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ等のこれまで学生が受けた講義と臨床の看護実践が結び付けられるようサポートしている。特に、こどもと家族の生活面について、学生が自身の考えを言語化し、個別性のある看護援助が行えるよう支援することに注力している。

4. 教育の成果

授業見学・授業アンケート等の内部評価

1. 学生の毎回の講義の振り返りコメント小児の疾患と生活を結び付けて考えることの重要性や、こどもの発達段階により同じ病気でも支援が異なること、長期的な治療を要する病気の場合のセルフケアの重要性などの学びについて述べられた。
2. 小児看護学実習での学生の発言（アウトプット）疾患や発達段階だけでなく、こどもの生活を理解し、こどもの全体像を捉えて支援の方向性を検討することの重要性や、子どもの生活を整えるという看護の役割などの学びについて述べられた。
3. 小児看護学領域 教員からのフィードバック 月1～2回行っている領域ミーティングで毎講義の振り返りを行っている（Rドライブ内の議事録）

5. 改善への努力と今後の目標

- ・講義ごとの毎回の見直しを行い、各単元の修正および、科目全体の構成を行う。学生の動機づけをさらに強める工夫として、課題と到達目標や講義内容との関連を明確に説明する。領域内教員同士で常にフィードバック行う。
- ・小児看護学領域の講義および実習を通して、「小児看護の楽しさややりがい」や、「看護を学ぶことの楽しさ」を感じてもらうことを目指しており、学生がそれらを体感できる方法を検証し、教授方法を研鑽する。

【添付資料】

- ・シラバス
- ・講義資料
- ・el-Campus に学生が入力した講義中のコメントおよび振り返り
- ・R ドライブ内の会議議事録